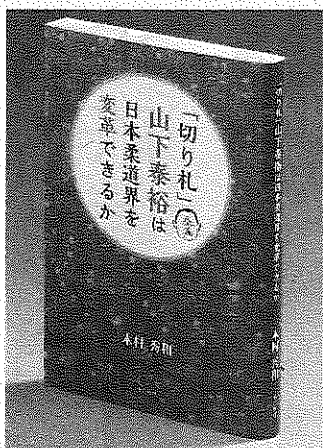


「切り札」山下泰裕は日本柔道界を改革できるか

木村秀和 著



本の泉社・1300円

きむら・ひでかず
42年生まれ。91年から2019年まで月刊誌『近代柔道』で取材。元「しんぶん赤旗」記者

課題多き柔道界の解決の道示す

月刊誌『近代柔道』を主舞台に柔道記者歴30余年の筆者が記者生活の集大成として書き下ろした快書。柔道界の切り札と言われる山下泰裕全柔連会長へ提言の形で日本柔道界を批判的に見つめ、解決しなければならぬ問題点を克明に記す。根底にあるのは深い柔道愛で、日本の

主要課題は「暴力根絶」「組織の隠蔽体質」「男社会の是正」。全柔連改革の一步は、山下会長の組織運営の姿勢を是正することにある」と厳しい。とりわけ柔道界にはびこる暴

力事件が一向に減らない現場を多角的に取材、暴力を容認する指導者も存在するなど指導部門の甘さを鋭く突く。事件の大半は指導者によるもの。柔道が強い指導者が必ずしも良賢で有能な指導者でない当たり前の論理が柔道界では通用しない。正しく楽しい柔道に親しませる指導者の育成が急務と強調する。全柔連の隠蔽体質に関して、少数の関係者で問題解決を図るなど、透明性・自立性の崩れを指摘する。宗岡正二前会長が強調した「闊達で開かれた全柔連」と真逆な方向ではないか。評議員会から記者を締め出す

し、事案の対処を事後報告で済ませようとするなど、改革に背を向けた姿勢を具体的に挙げる。日本柔道界はかつて男尊女卑の塊だったが、今も女性蔑視体質が残る例もある。女子有段者は今も「〇〇女子〇段」と呼ばれる、理事・評議員は極端に少なく発言は尊重されない、全日本女子チームは男子監督に固執する、などなど。

近代柔道史の知られざる裏話の数々も興味深い。カラー柔道衣導入に全柔連は強硬に反対したが、総会で押し切られると手のひら返して従った。その後の合理性なき数々の競技規定改正も、日本は全く反対できないまま決まる…。一頁一頁に新鮮な驚きが充満している。よこごころまで書いた！と称賛したい。

評者 徳田浩

元柔道新聞編集長
元毎日新聞編集委員